

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号

特許第7051907号

(P7051907)

(45)発行日 令和4年4月11日(2022.4.11)

(24)登録日 令和4年4月1日(2022.4.1)

(51)国際特許分類

F I

F 2 5 D 23/02 (2006.01)

F 2 5 D 23/02 3 0 6 G

E 0 5 D 3/18 (2006.01)

E 0 5 D 3/18

請求項の数 12 (全19頁)

(21)出願番号 特願2019-565238(P2019-565238)
 (86)(22)出願日 平成30年6月29日(2018.6.29)
 (65)公表番号 特表2020-521108(P2020-521108 A)
 (43)公表日 令和2年7月16日(2020.7.16)
 (86)国際出願番号 PCT/CN2018/093617
 (87)国際公開番号 WO2019/007275
 (87)国際公開日 平成31年1月10日(2019.1.10)
 審査請求日 令和1年11月25日(2019.11.25)
 (31)優先権主張番号 201710528804.2
 (32)優先日 平成29年7月1日(2017.7.1)
 (33)優先権主張国・地域又は機関 中国(CN)

(73)特許権者 516270865
 チンダオ ハイアール ジョイント スト
 ック カンパニー リミテッド
 QINGDAO HAIER JOINT
 STOCK CO., LTD
 中華人民共和国 266101 シャンド
 ン チンダオ ラオシャン ディストリクト
 ハイテック ゾーン ハイアール ロード
 ナンバー 1 ハイアール インダストリー
 パーク
 Haier Industry Park
 , Haier Road No.1, H
 i-tech Zone, Laosha
 n District, Qingdao
 , Shandong 266101 C
 最終頁に続く

(54)【発明の名称】 冷蔵庫

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

箱体と、前記箱体を開閉するための扉とを備える冷蔵庫であって、
 前記箱体に固定され位置決め軸および案内軸が設けられるヒンジ本体を更に備え、前記扉
 に前記位置決め軸が嵌設する位置決め溝および前記案内軸が嵌設する案内溝が設けられ、
 前記冷蔵庫の左右両側における前記ヒンジ本体が配置された側を枢軸側として、
 前記扉の閉状態を第1の状態とする場合、
 前記扉は、第1の状態で前記枢軸側に近接する側壁と、前記第1の状態で前記箱体から離
 れた前壁とを有し、
 前記位置決め溝は、前記側壁および前記前壁に近接する第1の位置と、前記第1の位置よ
 りも前記側壁および前記前壁から離れた第2の位置とを有し、
 前記案内溝は第3の位置および第4の位置を有し、
 前記扉が前記第1の状態にある時に、前記位置決め軸は前記第2の位置にあり、前記案内
 軸は前記第4の位置にあり、
 前記案内軸および前記案内溝は、前記扉が前記第1の状態から開かれると、前記位置決め
 軸を回転中心として回転し、前記案内軸および前記案内溝の制限によって前記位置決め軸
 が前記第2の位置から前記第1の位置に移動し、前記案内軸が前記第4の位置から前記第
 3の位置に移動した場合、前記扉が前記枢軸側から離れた方向に一定の距離だけ移動して
 、一定の角度まで開かれ第2の状態になるように配置され、
 前記扉に前記位置決め溝と連通する枢軸溝が更に設けられ、前記枢軸溝の前記位置決め溝

から離れた一端は枢軸位置であり、前記案内溝は前記枢軸溝と平行する移行溝を有し、前記移行溝の前記第 3 の位置から離れた一端は回転開始位置であり、前記案内溝に回転終了位置が更に設けられ、前記案内溝は前記回転開始位置と前記回転終了位置の間において円弧状であり、且つ当該円弧の中心は前記位置決め軸が前記枢軸位置にある時の中心軸であることを特徴とする冷蔵庫。

【請求項 2】

前記側壁と前記前壁とが交差して側縁を形成し、前記位置決め軸が前記第 1 の位置にある時の中心軸から前記側縁までの距離は、前記位置決め軸が前記第 2 の位置にある時の中心軸から前記側壁までの距離以下であることを特徴とする請求項 1 に記載の冷蔵庫。

10

【請求項 3】

前記位置決め軸が前記第 1 の位置にある時の中心軸から前記側縁までの距離は、前記位置決め軸が前記第 2 の位置にある時の中心軸から前記側壁までの距離に等しいことを特徴とする請求項 2 に記載の冷蔵庫。

【請求項 4】

前記枢軸溝は前記第 1 の位置と連通し、前記移行溝の両端のそれぞれが前記第 3 の位置と前記回転開始位置に接続されることを特徴とする請求項 1 ～ 3 のいずれか 1 項に記載の冷蔵庫。

【請求項 5】

前記案内軸は前記位置決め軸よりも前記側壁から離れた側に設けられ、前記第 3 の位置は前記第 4 の位置よりも前記前壁から離れて前記側壁の近くに設けられていることを特徴とする請求項 1 に記載の冷蔵庫。

20

【請求項 6】

前記位置決め溝は、前記第 2 の位置よりも前記側壁および前記前壁から離れた第 5 の位置を更に有し、前記案内溝は、前記第 3 の位置よりも前記前壁から離れて前記側壁の近くに設けられる第 6 の位置を更に有し、前記扉が第 2 の状態からさらに開かれると、前記位置決め軸が前記第 1 の位置から前記第 5 の位置に移動し、前記案内軸が前記第 3 の位置から前記第 6 の位置に移動し、前記扉が一定の距離だけ前記枢軸側に移動して、90°に開かれ第 3 の状態になることを特徴とする請求項 5 に記載の冷蔵庫。

30

【請求項 7】

前記位置決め軸が前記第 5 の位置にある時の中心軸から前記前壁までの距離は、前記位置決め軸が前記第 2 の位置にある時の中心軸から前記側壁までの距離に等しいことを特徴とする請求項 6 に記載の冷蔵庫。

【請求項 8】

前記回転開始位置は前記第 6 の位置よりも前記第 3 の位置から離れて設けられていることを特徴とする請求項 6 に記載の冷蔵庫。

【請求項 9】

前記第 1 の位置、前記第 2 の位置および前記第 5 の位置の中心は同一直線上に位置することを特徴とする請求項 6 に記載の冷蔵庫。

40

【請求項 10】

前記枢軸溝は前記第 5 の位置と連通し、前記移行溝の両端のそれぞれが前記第 6 の位置と前記回転開始位置に接続されることを特徴とする請求項 6 に記載の冷蔵庫。

【請求項 11】

前記扉に固定され前記位置決め溝および前記案内溝が設けられる案内ブロックを備えることを特徴とする請求項 1 に記載の冷蔵庫。

【請求項 12】

前記枢軸溝の延長線は前記回転開始位置と前記回転終了位置の中心線と交差することを特

50

徴とする請求項 1 に記載の冷蔵庫。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本願は、出願日が 2017 年 7 月 1 日であり、出願番号が 201710528804.2 であり、発明の名称が冷蔵庫である中国特許出願の優先権を主張し、当該出願の全文が引用により本願に組み込まれる。

【0002】

本発明は、冷蔵庫に関する。

【背景技術】

【0003】

従来から、冷蔵庫は単軸ヒンジを使用しており、扉ヒンジの固定軸を中心として扉を円周方向に移動させて開閉する。既存の冷蔵庫には、扉を開くと、扉のヒンジに近い側壁と前壁が交差して形成された縁部が冷蔵庫の箱体側壁の延長線から離れ、ビルトイン冷蔵庫やシェルフ壁間の隙間が小さい場合に、上記のようなヒンジ設計に起因して、冷蔵庫の扉の開き角度が制限される問題が存在している。

【0004】

このため、上記の問題を解決するには、既存の冷蔵庫をさらに改良する必要がある。

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

本発明の目的は、既存の冷蔵庫において扉を開くと縁部が冷蔵庫の側壁から離れた問題を解決するための冷蔵庫を提供することである。

【課題を解決するための手段】

【0006】

上記の目的を達成するために、本発明は、箱体と、前記箱体を開閉するための扉とを備える冷蔵庫であって、

前記箱体に固定され位置決め軸および案内軸が設けられるヒンジ本体を更に備え、前記扉に前記位置決め軸が嵌設する位置決め溝および前記案内軸が嵌設する案内溝が設けられ、前記冷蔵庫の左右両側における前記ヒンジ本体が配置された側を枢軸側として、前記扉の閉状態を第 1 の状態とする場合、前記扉は、第 1 の状態で前記枢軸側に近接する側壁と、前記第 1 の状態で前記箱体から離れた前壁とを有し、前記位置決め溝は、前記側壁および前記前壁に近接する第 1 の位置と、前記第 1 の位置よりも前記側壁および前記前壁から離れた第 2 の位置とを有し、前記案内溝は第 3 の位置および第 4 の位置を有し、前記扉が前記第 1 の状態にある時に前記位置決め軸は前記第 2 の位置にあり、前記案内軸は前記第 4 の位置にあり、

前記案内軸および前記案内溝は、前記扉が前記第 1 の状態から開かれると、前記位置決め軸を回転中心として回転し、前記案内軸および前記案内溝の制限によって前記位置決め軸が前記第 2 の位置から前記第 1 の位置に移動し、前記案内軸が前記第 4 の位置から前記第 3 の位置に移動した場合、前記扉が前記枢軸側から離れた方向に一定の距離だけ移動して、一定の角度まで開かれ第 2 の状態になるように配置され、

前記扉に前記位置決め溝と連通する枢軸溝が更に設けられ、前記枢軸溝の前記位置決め溝から離れた一端は枢軸位置であり、前記案内溝は前記枢軸溝と平行する移行溝を有し、前記移行溝の前記第 3 の位置から離れた一端は回転開始位置であり、前記案内溝に回転終了位置が更に設けられ、前記案内溝は前記回転開始位置と前記回転終了位置の間において円弧状であり、且つ当該円弧の中心は前記位置決め軸が前記枢軸位置にある時の中心軸である冷蔵庫を提供する。

【発明の効果】

【0007】

本発明は、冷蔵庫の扉が開かれると枢軸側から離れて一定の距離だけ移動することによっ

10

20

30

40

50

て、扉の側壁への突出による開閉不具合を解消することができる有益な効果を有する。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 0 8 】

本発明のいくつかの特定の実施形態を、限定ではなく例として以下詳細に説明する。図面中の同じ参照番号は、同じまたは類似の部品または部分を示している。当業者は、図面が必ずしも縮尺通りに描かれていないことを理解すべきである。

【図 1】本発明の第 1 の実施形態の冷蔵庫を示す平面図である。

【図 2】本発明の第 1 の実施形態の冷蔵庫のヒンジ軸および案内ブロックを示す平面図である。

【図 3 a】本発明の具体的な実施形態による、異なる角度で開かれた冷蔵庫の扉を示す平面図である。

10

【図 3 b】本発明の具体的な実施形態による、異なる角度で開かれた冷蔵庫の扉を示す平面図である。

【図 3 c】本発明の具体的な実施形態による、異なる角度で開かれた冷蔵庫の扉を示す平面図である。

【図 3 d】本発明の具体的な実施形態による、異なる角度で開かれた冷蔵庫の扉を示す平面図である。

【図 3 e】本発明の具体的な実施形態による、異なる角度で開かれた冷蔵庫の扉を示す平面図である。

【図 4】本発明の第 2 の実施形態の冷蔵庫のヒンジ本体および案内ブロックを示す概略分解図である。

20

【図 5】本発明の第 2 の実施形態の冷蔵庫の案内ブロックを示す平面図である。

【図 6】本発明の第 3 の実施形態の冷蔵庫のヒンジ本体および案内ブロックを示す正面図である。

【図 7】本発明の第 3 の実施形態の冷蔵庫の案内ブロックを示す概略斜視図である。

【図 8】本発明の第 3 の実施形態の他の実施形態の冷蔵庫の案内ブロックを示す概略斜視図である。

【図 9】本発明の第 4 の実施形態の冷蔵庫のヒンジ本体および案内ブロックを示す正面図である。

【図 1 0】本発明の第 4 の実施形態の冷蔵庫の案内ブロックの概略斜視図である。

30

【図 1 1】本発明の第 4 の実施形態の他の実施形態の冷蔵庫のヒンジ本体および案内ブロックを示す概略斜視図である。

【図 1 2】本発明の第 5 の実施形態の冷蔵庫のヒンジ本体および案内ブロックを示す正面図である。

【図 1 3】本発明の第 5 の実施形態の冷蔵庫のヒンジ本体および案内ブロックを示す概略分解図である。

【図 1 4】本発明の第 6 の実施形態の冷蔵庫の装飾ストリップおよび案内ブロックを示す概略斜視図である。

【図 1 5】本発明の第 6 の実施形態の冷蔵庫の装飾ストリップおよび案内ブロックを示す概略分解図である。

40

【図 1 6】本発明の第 6 の実施形態の冷蔵庫の案内ブロックを示す概略斜視図である。

【図 1 7】本発明の第 7 の実施形態の冷蔵庫のヒンジ本体および案内ブロックを示す概略分解図である。

【図 1 8】本発明の第 7 の実施形態の冷蔵庫の案内ブロックを示す概略斜視図である。

【図 1 9】本発明の第 8 の実施形態の冷蔵庫のヒンジ本体および案内ブロックを示す概略分解図である。

【図 2 0】本発明の第 9 の実施形態の冷蔵庫のヒンジ本体および案内ブロックを示す概略分解図である。

【発明を実施するための形態】

【 0 0 0 9 】

50

本発明の目的、技術手段および利点をより明らかにするために、以下図面および具体的な実施形態を参照して、本発明を詳細に説明する。

【 0 0 1 0 】

図 1 ~ 図 3 e に示すように、本発明の第 1 の実施形態による冷蔵庫 1 0 0 は、箱体 1 と、箱体 1 を開閉するための扉 2 と、箱体 1 に固定されたヒンジ本体 1 1 と、扉 2 に固定された案内ブロック 2 1 と、を備える。第 1 の実施形態では、ヒンジ本体 1 1 および案内ブロック 2 1 の対が扉 2 の上下に設けられている。

【 0 0 1 1 】

位置決め溝 2 5 および案内溝 2 6 は案内ブロック 2 1 に設けられ、ヒンジ本体 1 1 に位置決め軸 1 2 および案内軸 1 3 が設けられ、扉 2 には、位置決め軸 1 2 が嵌設する位置決め溝 2 5 と案内軸 1 3 が嵌設する案内溝 2 6 が設けられる。勿論、他の実施形態の冷蔵庫 1 0 0 では、案内ブロック 2 1 を設けず、直接に位置決め溝 2 5 および案内溝 2 6 を扉 2 に設けてもよい。

【 0 0 1 2 】

ヒンジ本体 1 1 および案内ブロック 2 1 が扉 2 の上方に配置される場合、案内軸 1 3 および位置決め軸 1 2 が下方に突出し、案内溝 2 6 および位置決め溝 2 5 が上方に開口する。一方、ヒンジ本体 1 1 および案内ブロック 2 1 が扉 2 の下方に配置される場合、案内軸 1 3 および位置決め軸 1 2 が上方に突出し、案内溝 2 6 および位置決め溝 2 5 が下方に開口する。

【 0 0 1 3 】

冷蔵庫 1 0 0 の左右両側におけるヒンジ本体 1 1 が配置された側を枢軸側とし、扉 2 の閉状態を第 1 の状態とする場合、扉 2 は第 1 の状態で枢軸側に近接する側壁 2 2 と、第 1 の状態で箱体 1 から離れた前壁 2 3 とを有し、側壁 2 2 と前壁 2 3 とが交差して側縁 2 4 を形成する。

【 0 0 1 4 】

扉 2 に固定溝（図示せず）が形成されており、案内ブロック 2 1 が固定溝に固定され、案内ブロック 2 1 の高さが固定溝の深さよりも小さく、扉 2 の前壁 2 3 の頂部はヒンジ本体 1 1 の高さ以上の高さを有する。ヒンジ本体 1 1 には、特に扉 2 が 9 0 ° に開かれたとき前壁 2 3 を回避するために、枢軸側に面する切り欠き 1 4 が設けられている。

【 0 0 1 5 】

本実施形態では、位置決め溝 2 5 は、側壁 2 2 および前壁 2 3 に近接する第 1 の位置 2 5 1 と、第 1 の位置 2 5 1 よりも側壁 2 2 および前壁 2 3 から離れた第 2 の位置 2 5 2 と、第 2 の位置 2 5 2 よりも側壁 2 2 および前壁 2 3 から離れた第 5 の位置 2 5 3 と、を有する。第 1 の位置 2 5 1、第 2 の位置 2 5 2、および第 5 の位置 2 5 3 の中心は同一直線上に位置し、且つ中心延長線が側縁 2 4 と交差している。本発明で言う異なる位置の中心とは、当該位置における位置決め軸 2 5 または案内軸 2 6 の中心軸と、ヒンジ本体 1 1 側の案内ブロック 2 1 の平面との交差点である。

【 0 0 1 6 】

案内溝 2 6 は、位置決め溝 2 5 の第 1 の位置 2 5 1、第 2 の位置 2 5 2 のそれぞれに対応して設けられる第 3 の位置 2 6 1 および第 4 の位置 2 6 2 を有し、扉 2 が第 1 の状態にある時、位置決め軸 1 2 が第 2 の位置 2 5 2 にあり、案内軸 1 3 が第 4 の位置 2 6 2 にある。

【 0 0 1 7 】

案内軸 1 3 および案内溝 2 6 は、扉 2 が第 1 の状態から開かれると、位置決め軸 1 2 を回転中心として回転し、案内軸 1 3 および案内溝 2 6 の制限によって位置決め軸 1 2 が第 2 の位置 2 5 2 から第 1 の位置 2 5 1 に移動し、案内軸 1 3 が第 4 の位置 2 6 2 から第 3 の位置 2 6 1 に移動した場合、扉 2 が枢軸側から離れる方向に一定の距離だけ移動して、一定の角度まで開かれ第 2 の状態になるように設けられている。開き角度は、位置決め溝 2 5 の中心延長線が前壁と交差する角度である。

【 0 0 1 8 】

位置決め軸 1 2 は、案内軸 1 3 の直径よりも大きい直径を有し、案内軸 1 3 は位置決め軸

10

20

30

40

50

１２よりも側壁２２から離れた側に設けられ、且つ案内軸１３の中心軸と位置決め軸１２の中心軸を結ぶ線が第１の状態では側壁２２に対して垂直であるため、本実施形態では、第３の位置２６１が第４の位置２６２よりも前壁２３から離れて側壁２２の近くに設けられている。

【００１９】

位置決め軸１２が第１の位置２５１にある時の中心軸から側縁２４までの距離は、位置決め軸１２が第２の位置２５２にある時の中心軸から側壁２２までの距離以下であるため、扉２が第１の状態から開かれ第２の状態になると、枢軸側から離れた方向に一定の距離だけ移動し、かつ側縁２４が第１の状態の扉２の側壁２２から突出することがない。

【００２０】

本実施形態では、位置決め軸１２が第１の位置２５１にある時の中心軸から側縁２４までの距離は、位置決め軸１２が第２の位置２５２にある時の中心軸から側壁２２までの距離に等しいため、扉２が第１の状態から開かれ第２の状態になると、側縁２４が第１の状態の扉２の側壁２２に沿って前後方向に移動する。

【００２１】

案内溝２６は、第５の位置２５３に対応する第６の位置２６３を更に有し、第６の位置２６３は第３の位置２６１よりも前壁２３から離れて側壁２２の近くに設けられている。

【００２２】

扉２が第２の状態からさらに開かれると、位置決め軸１２が第１の位置２５１から第５の位置２５３に移動し、案内軸１３が第３の位置２６１から第６の位置２６３に移動した場合、扉２が枢軸側に一定の距離だけ移動して、９０°に開かれ第３の状態になる。このように、箱体１の開度や、ユーザに面する開口空間が大きくなり、箱体１内の収納庫が扉２の邪魔によって引き出せない問題を回避することができる。

【００２３】

位置決め軸１２が第５の位置２５３にある時の中心軸から前壁２３までの距離は、位置決め軸１２が第２の位置２５２にある時の中心軸から側壁２２までの距離に等しい。すなわち、扉２が枢軸側に移動すると、側縁２４が第１の状態の扉２の側壁２２に沿って前後方向に移動し、扉２が９０°に開かれた時、扉２の前壁２３が第１の状態での側壁２２の位置に達する。

【００２４】

案内溝２６は、第６の位置２６３よりも側壁２２に近接する第７の位置２６４を更に有し、第７の位置２６４と第６の位置２６３との間において円弧状であり、且つ当該円弧の中心線は位置決め軸１２が第５の位置２５３にある時の中心軸であり、扉２が第３の状態からさらに開かれると、第５の位置２５３にある位置決め軸１２を回転軸として回転する。第６の位置２６３が回転開始位置、第７の位置２６４が回転終了位置としても理解され、且つ円弧の角度が９０°以上であるため、扉２の開度が大きくなり、１８０°以上開かれ得る。

【００２５】

勿論、他の実施形態では、位置決め溝２５に第５の位置２５３を設けず、かつ案内溝２６に第６の位置２６３を設けず、第７の位置２６４と第３の位置２６１間において案内溝２６が円弧状であり、当該円弧の中心線は位置決め軸１２が第１の位置２５１にある時の中心軸であり、すなわち扉２が第２の状態からさらに開かれると、第１の位置２５１にある時の位置決め軸１２を回転軸として回転してもよい。

【００２６】

なお、図１および図３ａ～３ｅに示すように、本実施形態では、０～９０°に扉２を開く過程で、扉２が $(X = (X_1 + X_2) / 2, Y = (Y_1 + Y_2) / 2)$ で示される軌跡を有する変化点の周りを回転する（ただし、 X は変化点から扉２の側壁２２までの距離を示し、 Y は変化点から扉２の前壁２３までの距離を示す）。当該変化点の運動軌跡は、次のような式で算出される。

【００２７】

10

20

30

40

50

扉 2 が第 1 の状態にある時、位置決め軸 1 2 の中心軸から前壁 2 3 までの距離を a 、位置決め軸 1 2 の中心軸から扉 2 の側壁 2 2 までの距離を b 、位置決め軸 1 2 と案内軸 1 3 の中心軸との間の距離を L とし、位置決め軸 1 2 の中心軸から扉 2 の側縁 2 4 までの距離を C_1 とする。ただし、 a 、 b 、 L は固定値であり、 C_1 は扉 2 の位置によって異なる値である。

【0028】

第 1 の状態では、 $a^2 + b^2 = C_1^2$ 、 $\tan \theta = a / b$ (ただし、 θ は位置決め溝 2 5 の中心延長線と扉 2 の前壁 2 3 とが交差する角度である。)

【0029】

扉 2 の回転角度を m とし、かつ $0^\circ < m < 90^\circ$ の場合、 $\cos(m) = b / C_1$ すなわち $C_1 = b / \cos(m)$

10

【0030】

位置決め軸 1 2 の中心軸から扉 2 の側壁 2 2 までの距離を X_1 とする場合、 $X_1 = C_1 * \cos(m)$

【0031】

位置決め軸 1 2 の中心軸から扉 2 の前壁 2 3 までの距離を Y_1 とする場合、 $Y_1 = C_1 * \sin(m)$

【0032】

案内軸 1 3 の中心軸から扉 2 の側壁 2 2 までの距離を X_2 とする場合、 $X_2 = C_1 * \cos(m) + L * \cos(m)$

20

【0033】

案内軸 1 3 の中心軸から扉 2 の前壁 2 3 までの距離を Y_2 とする場合、 $Y_2 = C_1 * \sin(m) + L * \sin(m)$

【0034】

扉 2 の回転角度を m とし、かつ $90^\circ < m < 180^\circ$ の場合、 $\cos(m) = b / C_1$ すなわち $C_1 = b / \cos(m)$

【0035】

位置決め軸 1 2 の中心軸から扉 2 の側壁 2 2 までの距離を X_1 とする場合、 $X_1 = C_1 * \cos(m)$

【0036】

位置決め軸 1 2 の中心軸から扉 2 の前壁 2 3 までの距離を Y_1 とする場合、 $Y_1 = C_1 * \sin(m)$

30

【0037】

案内軸 1 3 の中心軸から扉 2 の側壁 2 2 までの距離を X_2 とする場合、 $X_2 = C_1 * \cos(m) + L * \cos(m)$

【0038】

案内軸 1 3 の中心軸から扉 2 の前壁 2 3 までの距離を Y_2 とする場合、 $Y_2 = C_1 * \sin(m) + L * \sin(m)$

【0039】

扉 2 の回転角度を m とし、かつ $m > 90^\circ$ の場合、扉 2 は、位置決め軸 1 2 が第 5 の位置 2 5 3 にある時の中心軸である固定軸の周りを回転する。

40

【0040】

本実施形態の冷蔵庫 1 0 0 では、扉 2 が第 1 の状態から第 2 の状態に開かれると、扉 2 全体が枢軸側から離れた一端に向かって一定の距離だけ移動し、扉 2 の側縁 2 4 の突出による干渉を回避するように制御し、扉 2 が第 2 の状態から第 3 の状態に開かれると、扉 2 全体が枢軸側の一端に向かって一定の距離だけ移動し、箱体 1 の開度を大きくするように制御する。

【0041】

図 4 および図 5 に、本発明の第 2 の実施形態による冷蔵庫のヒンジ本体 1 1 および案内ブロック 2 1 の概略構造図が示されている。第 1 の実施形態との主な違いは次のとおりであ

50

る。

【 0 0 4 2 】

案内溝 2 6 は、第 7 の位置を有さず、第 6 の位置 2 6 3 よりも側壁 2 2 に近接する第 8 の位置 2 6 5 と、第 8 の位置 2 6 5 と第 6 の位置 2 6 3 との間の第 9 の位置 2 6 6 とを有し、位置決め溝 2 5 は第 1 0 の位置 2 5 4 をさらに有する。移行溝 2 6 7 が第 9 の位置 2 6 6 と第 6 の位置 2 6 3 との間に形成され、第 9 の位置 2 6 6 が移行溝 2 6 7 の第 6 の位置 2 6 3 から離れた一端に設けられ、回転開始位置としても理解され、第 8 の位置 2 6 5 が回転終了位置としても理解される。第 1 0 の位置 2 5 4 と第 5 の位置 2 5 3 の間に枢軸溝 2 5 5 が形成され、枢軸溝 2 5 5 は移行溝 2 6 7 と平行に設けられている。枢軸溝 2 5 5 は第 5 の位置 2 5 3 と連通しており、移行溝 2 6 7 の両端はそれぞれ第 6 の位置 2 6 3 および回転開始位置に接続されている。

10

【 0 0 4 3 】

第 1 0 の位置 2 5 4 と第 5 の位置 2 5 3 の中心線の延長線は、第 8 の位置 2 6 5 と第 9 の位置 2 6 6 の中心線と交差し、第 8 の位置 2 6 5 と第 9 の位置 2 6 6 の間において案内溝 2 6 が円弧状であり、且つ当該円弧の中心線は位置決め軸 1 2 が第 1 0 の位置 2 5 4 にある時の中心軸である。

【 0 0 4 4 】

扉が第 3 の状態からさらに開かれると、位置決め軸 1 2 は第 5 の位置 2 5 3 から第 1 0 の位置 2 5 4 に移動し、案内軸 1 3 は第 6 の位置 2 6 3 から第 9 の位置 2 6 6 に移動し、扉は第 1 0 の位置 2 5 4 にある位置決め軸 1 2 を回転軸として回転し、案内軸 1 3 が第 9 の位置 2 6 6 から第 8 の位置 2 6 5 に向かって移動する。

20

【 0 0 4 5 】

本実施形態は、上記のように第 1 の実施形態の一部を改良したものであり、本実施形態の第 1 の実施形態と矛盾しない部分が第 1 の実施形態にも適用され得る。例えば、第 1 の実施形態では、案内溝 2 6 に第 6 の位置 2 6 3 を設けず、かつ位置決め溝 2 5 に第 5 の位置 2 5 3 を設けず、枢軸溝 2 5 5 が第 1 の位置 2 5 1 に接続され、移行溝 2 6 7 の両端はそれぞれ第 3 の位置 2 6 1 および回転開始位置に接続されてもよい。このようにしても、扉の平行移動を防止する効果を同様に達成することができる。

【 0 0 4 6 】

本実施形態によれば、扉が 90° からさらに開かれると、案内溝 2 6 の第 9 の位置 2 6 6 と第 8 の位置 2 6 5 の間での部分が位置決め溝 2 5 と平行になり扉がスライドや揺れやすい問題を解決することができる。

30

【 0 0 4 7 】

図 6 および図 7 に、本発明の第 3 の実施形態による冷蔵庫のヒンジ本体 1 1 および案内ブロック 2 1 の概略構造図が示されている。第 1 の実施形態との主な違いは次のとおりである。

【 0 0 4 8 】

箱体は、案内ブロック 2 1 とヒンジ本体 1 1 との間に設けられ、それらを離間させるリミットボス 2 7 を更に備える。リミットボス 2 7 は、前壁 2 3 に近接する先端と、前壁 2 3 から離れた後端を有しているため、扉が開かれる時リミットボス 2 7 が常にヒンジ本体 1 1 に当接する。

40

【 0 0 4 9 】

リミットボス 2 7 は、案内ブロック 2 1 と一体的に形成され、リミットボス 2 7 の数は 2 つであり、且つそれぞれ案内溝 2 6 および位置決め溝 2 5 の周りに配置されている。

【 0 0 5 0 】

本実施形態では、リミットボス 2 7 によって案内ブロック 2 1 とヒンジ本体 1 1 とを離間させ、扉を開く過程で、ヒンジ本体 1 1 の箱体から離れた縁と案内ブロック 2 1 の箱体に面する縁の間の摩擦に起因して、ヒンジ本体 1 1 または案内ブロック 2 1 の摩耗による扉のバランスに悪影響を与えることを防止することができる。

【 0 0 5 1 】

50

図 8 に、第 3 の実施形態のさらなる改良が示され、リミットボス 2 7 に替えて複数のリミットボール 2 8 を配置している。リミットボール 2 8 の配置によって、リミットボス 2 7 による効果に加えて、案内ブロック 2 1 とヒンジ本体 1 1 の間の摩擦が滑り摩擦から転がり摩擦になり、摩擦力が小さくなり、扉の開閉に必要な力を低減できる効果も得られる。

【 0 0 5 2 】

複数のリミットボール 2 8 は、案内溝 2 6 および位置決め溝 2 5 の周りに配置されるとともに、案内ブロック 2 1 の異なる位置に分布し、扉が回転する時、同一直線上ではない少なくとも 3 つのリミットボール 2 8 が扉を支持するように常にヒンジ本体 1 1 に当接し、扉の揺れを抑制する。

【 0 0 5 3 】

リミットボール 2 8 の具体的な配置は、既知の技術であるため、本発明では、案内ブロック 2 1 とヒンジ本体 1 1 の間の転がり摩擦を達成すればよく、重複な説明が割愛される。

【 0 0 5 4 】

本実施形態では、複数のリミットボール 2 8 が位置決め溝 2 5 の周りに配置されている。もちろん、リミットボール 2 8 が案内溝 2 6 の周りに配置されてもよい。なお、リミットボール 2 8 およびリミットボス 2 7 の両方を配置し、すなわちリミットボール 2 8 をリミットボス 2 7 上に配置してもよい。

【 0 0 5 5 】

図 9 および図 1 0 に、本発明の第 4 の実施形態による冷蔵庫のヒンジ本体 1 1 および案内ブロック 2 1 の概略構造図が示されている。第 1 の実施形態との主な違いは次のとおりである。

【 0 0 5 6 】

冷蔵庫は、案内ブロック 2 1 のヒンジ本体 1 1 から離れた側に配置され案内溝 2 6 および位置決め溝 2 5 を遮蔽するためのバッフル 2 9 を更に備え、案内軸 1 3 は位置決め軸 1 2 の高さと同じ高さを有し、両方とも案内溝 2 6 および位置決め溝 2 5 の深さよりも大きい。バッフル 2 9 が案内ブロック 2 1 と一体に形成され、案内軸 1 3 と位置決め軸 1 2 は異なる直径を有するので、より強固に扉を固定し、扉の揺れを抑制することができる。本実施形態では、案内軸 1 3 および位置決め軸 1 2 がバッフル 2 9 に当接することにより、扉を支持するとともに案内ブロック 2 1 とヒンジ本体 1 1 を離間させることができる。

【 0 0 5 7 】

図 1 1 に、第 4 の実施形態のさらなる改良が示され、案内軸 1 3 および位置決め軸 1 2 のバッフル 2 9 と当接する一端にボール 1 3 2 が設けられ、その目的は、ボール 1 3 2 によってヒンジ本体 1 1 と案内ブロック 2 1 間の摩擦力を減らすことでもある。

【 0 0 5 8 】

図 1 2 および図 1 3 に、本発明の第 5 の実施形態による冷蔵庫のヒンジ本体 1 1 および案内ブロック 2 1 の概略構造図が示されている。第 5 の実施形態は第 4 の実施形態をさらに改良したものであり、主に次のように第 4 の実施形態と区別される。

【 0 0 5 9 】

ヒンジ本体 1 1 は、箱体から突出し高さ方向に離間した第 1 のプレート本体 1 7 および第 2 のプレート本体 1 8 を備え、第 1 のプレート本体 1 7 は第 2 のプレート本体 1 8 よりも間隔を置いて案内ブロック 2 1 の近くに設けられ、第 1 のプレート本体 1 7 および第 2 のプレート本体 1 8 には、案内軸 1 3 および位置決め軸 1 2 が貫通するための貫通穴 1 7 1 が設けられている。

【 0 0 6 0 】

案内軸 1 3 および位置決め軸 1 2 には、第 1 のプレート本体 1 7 および第 2 のプレート本体 1 8 の間にそれぞれ案内軸 1 3 および位置決め軸が貫通穴 1 7 1 から外れないための第 1 のリミットディスク 1 3 1 および第 2 のリミットディスク 1 2 2 が設けられ、第 1 のリミットディスク 1 3 1 および第 2 のリミットディスク 1 2 2 は同じ高さを有し、且つ貫通穴 1 7 1 の直径よりも大きい直径を有する。

【 0 0 6 1 】

10

20

30

40

50

案内軸 1 3 および位置決め軸 1 2 は、案内ブロック 2 1 の一端に向かってバッフル 2 9 に当接し、第 1 のリミットディスク 1 3 1 および第 2 のリミットディスク 1 2 2 のそれぞれと第 2 のプレート本体 1 8 との間に弾性部材 1 2 3 が設けられ、案内ブロック 2 1 と第 1 のプレート本体 1 7 との間の距離は、第 1 のリミットディスク 1 3 1 と第 2 のプレート本体 1 8 との間の距離よりも小さい。

【 0 0 6 2 】

本実施形態では、扉を開くと、案内ブロック 2 1 が第 1 のプレート本体 1 7 に当接するまでに弾性部材 1 2 3 が圧縮され、扉が重力により案内軸 1 3 および位置決め軸 1 2 に押しつけられ、この時、第 1 のプレート本体 1 7 が第 2 のプレート本体 1 8 とともに扉を支持する。すなわち、本実施形態では、扉の重力が第 1 のプレート本体 1 7 および第 2 のプレート本体 1 8 とに分配される。弾性部材 1 2 3 と第 2 のプレート本体 1 8 の間の摩擦係数が案内ブロック 2 1 と第 1 のプレート本体 1 7 の間の摩擦係数よりも大きくない場合、本実施形態の冷蔵庫の扉を開く時、摩擦力が第 1 の実施形態よりも小さくなり、且つ摩擦力が第 1 のプレート本体 1 7 および第 2 のプレート本体 1 8 に分配されるので、扉の第 1 のプレート本体 1 7 および第 2 のプレート本体 1 8 に対する摩耗が比較的小さくなり、冷蔵庫の扉の使用寿命を延長することができる。

10

【 0 0 6 3 】

なお、本実施形態の冷蔵庫と第 4 の実施形態との違いは、従来の単一ヒンジ軸冷蔵庫でも具体的には以下のように適用され得る。

【 0 0 6 4 】

ヒンジ本体には 1 つの回転軸が配置され、案内ブロックには回転軸と係合するための回転軸溝が設けられている。案内ブロックのヒンジ本体から離れた側に回転軸溝を遮蔽するためのバッフルが配置され、ヒンジ本体は、高さ方向に離間した第 1 のプレート本体および第 2 のプレート本体を備え、第 1 のプレート本体は第 2 のプレート本体よりも間隔を置いて案内ブロックの近くに配置されている。第 1 のプレート本体および第 2 のプレート本体には回転軸が貫通するための貫通穴が設けられ、回転軸には、第 1 のプレート本体と第 2 のプレート本体の間に回転軸が貫通穴から外れないためのリミットディスクが配置され、回転軸の案内ブロックに向かう一端がバッフルに当接し、リミットディスクと第 2 のプレート本体の間に弾性部材が配置され、案内ブロックと第 1 のプレート本体との間の距離がリミットディスクと第 2 のプレート本体との間の距離よりも小さい。

20

30

【 0 0 6 5 】

単一ヒンジ軸冷蔵庫に適用した場合でも、同様に扉の重力が第 1 のプレート本体および第 2 のプレート本体に分配されるとともに、摩擦力も第 1 のプレート本体および第 2 のプレート本体に分配されるので、摩耗を低減することができる。

【 0 0 6 6 】

図 1 4 ~ 図 1 6 に、本発明の第 6 の実施形態による冷蔵庫のヒンジ本体 1 1 および案内ブロック 2 1 の概略構造図が示されている。第 1 の実施形態との主な違いは次のとおりである。

【 0 0 6 7 】

案内ブロック 2 1 は、タッピングネジによって扉に直接固定されず、扉 2 に向かう側から突出して延びる少なくとも 1 つの位置決めボス 2 1 1 が設けられ、扉 2 に位置決めボス 2 1 1 と係合する少なくとも 1 つの位置決め溝 2 0 1 が設けられ、位置決めボス 2 1 1 と位置決め溝 2 0 1 との係合によって案内ブロック 2 1 が位置決められる。タッピングネジによって案内ブロック 2 1 を直接に扉 2 に固定する従来手法と比較して、本実施形態では、案内ブロック 2 1 および扉 2 が固定前に予め位置決められており、直接固定に起因する案内ブロック 2 1 のずれを回避し、取付済の扉 2 からの冷気漏れの問題がない。

40

【 0 0 6 8 】

本実施形態では、位置決めボス 2 1 1 の数は 1 つであり、位置決め溝 2 5 のヒンジ本体 1 1 から離れた側のエッジから扉 2 へ突出して延在し、位置決めボス 2 1 1 の断面形状は、位置決め溝 2 5 の断面形状と一致している。位置決めボス 2 1 1 および位置決め溝 2 0 1

50

の断面形状が非円形であればよく、１つの位置決めボス２１１だけ位置決め効果を達成することができる。

【００６９】

また、箱体は、扉２に固定された装飾ストリップ２０をさらに備え、装飾ストリップ２０が案内ブロック２１に対応して固定され、位置決め溝２０１が装飾ストリップ２０に配置され、且つ位置決め溝２０１は、扉２の発泡時発泡体が位置決め溝２０１から溢れるのを防ぐための止まり穴である。なお、位置決め溝２０１は、位置決めボス２１１を完全に収容可能のために、位置決めボス２１１の高さ以上の深さを有し、好ましくは、位置決め溝２０１は位置決めボス２１１の高さと等しい深さを有する。

【００７０】

図１７および図１８に、本発明の第７の実施形態による冷蔵庫のヒンジ本体１１および案内ブロック２１の概略構造図が示されている。第１の実施形態との主な違いは次のとおりである。

【００７１】

ヒンジ本体１１および案内ブロック２１が扉の上方に配置される場合、案内軸１３および位置決め軸１２が上方から下方に突出し、位置決め溝２５および案内溝２６が位置決め軸１２および案内軸１３と係合するように上方に開口する。

【００７２】

ヒンジ本体１１は、案内軸１３および／または位置決め軸１２の案内ブロック２１に向かう端に設けられたフランジ１２１を更に備え、フランジ１２１は、案内軸１３および／または位置決め軸１２の端部から周囲に突出して延在し、案内ブロック２１には、案内溝２６および／または位置決め溝２５の面する内壁から案内溝２６および／または位置決め溝２５に沿って突出しフランジ１２１と係合する締結構造２１２が設けられている。

【００７３】

これにより、万一扉が沈んでも、フランジ１２１と締結構造２１２の係合によって、扉のさらなる沈みを抑制することができる。

【００７４】

フランジ１２１は、案内軸１３および／または位置決め軸１２の端部から周囲に向かって延在し、円形断面を有し、案内溝２６および／または位置決め溝２５内には、フランジ１２１の断面直径よりも大きい直径を有する取付穴２１３が設けられ、取付穴２１３が案内溝２６および／または位置決め溝２５の端部に設けられる。締結構造２１２は案内溝２６および／または位置決め溝２５の他端から取付穴２１３まで延在している。

【００７５】

本実施形態では、案内軸１３のみにフランジ１２１が設けられており、かつ案内溝２６の第４の位置２６２が前壁２３に向かって一定の距離だけさらに延び、取付穴２１３が延長した案内溝２６内に設けられている。フランジ１２１を取付穴２１３に挿入してから、扉を移動して案内軸１３を第４の位置２６２に移動させれば、扉を箱体に組み込み得る。

【００７６】

図１９に、本発明の第８の実施形態による冷蔵庫のヒンジ本体１１および案内ブロック２１の概略構造図が示されている。第１の実施形態との主な違いは次のとおりである。

【００７７】

ヒンジ本体１１に位置決め溝２５が設けられ、扉の案内ブロック２１に位置決め軸１２'が設けられている。案内軸１３の位置及び案内溝２６の方向は、第１の実施形態と同じであるため、本実施形態では詳細な説明を省略するが、位置決め溝２５'の位置を再定義する必要がある。扉が第１の状態にある時第１の位置２５１'が扉の側壁から離れて前壁の近くに設けられ、第２の位置２５２'が第１の位置２５１'よりも前壁から離れて側壁の近くに設けられ、第５の位置２５３'が第２の位置２５２'よりも前壁から離れて側壁の近くに設けられている。

【００７８】

位置決め軸１２'の中心軸から側縁までの距離は、第１の状態における位置決め溝２５'の

10

20

30

40

50

第 2 の位置 2 5 2 ' から側壁までの距離以下である。

【 0 0 7 9 】

また、位置決め軸 1 2 ' の中心軸から前壁までの距離は、第 1 の状態における位置決め溝 2 5 ' の第 2 の位置 2 5 2 ' から側壁までの距離に等しい。

【 0 0 8 0 】

本実施形態における扉を開く過程は、第 1 の実施形態における扉 2 を開く過程とほぼ同じである。

【 0 0 8 1 】

図 2 0 に、本発明の第 9 の実施形態による冷蔵庫のヒンジ本体 1 1 および案内ブロック 2 1 の概略構造図が示されている。第 1 の実施形態と比較して、主な違いは次のとおりである。

10

【 0 0 8 2 】

ヒンジ本体 1 1 には固定ブロック 1 5 が固定され、案内溝 2 6 ' が固定ブロック 1 5 に設けられ、案内軸 1 3 ' が案内ブロック 2 1 に設けられている。位置決め軸 1 2 の位置及び位置決め溝 2 5 の方向は、第 1 の実施形態と同じであるため、本実施形態では詳細な説明を省略するが、案内軸 1 3 ' 及び案内溝 2 6 ' の位置を再定義する必要がある。

【 0 0 8 3 】

第 1 の状態では、案内軸 1 3 ' が位置決め軸 1 2 よりも前壁から離れた側に設けられ、第 3 の位置 2 6 1 ' が第 4 の位置 2 6 2 ' よりも側壁から離れて前壁の近くに設けられ、第 6 の位置 2 6 3 ' が第 3 の位置 2 6 1 ' よりも側壁から離れて前壁の近くに設けられ、第 9 の位置 2 6 6 ' が第 6 の位置 2 6 3 ' よりも前壁から離れて設けられ、第 8 の位置 2 6 5 ' が第 9 の位置 2 6 6 ' よりも側壁の近くに設けられている。

20

【 0 0 8 4 】

本実施形態における扉を開く過程は、第 1 の実施形態における扉 2 を開く過程とほぼ同じである。

【 0 0 8 5 】

本実施形態では、ヒンジ本体 1 1 に固定された固定ブロック 1 5 が設けられているため、扉のメンテナンスや交換が容易になる。

【 0 0 8 6 】

なお、本実施形態の固定ブロック 1 5 を設けず、案内軸 1 3 ' を案内ブロック 2 1 に設け、案内軸 1 3 をヒンジ本体 1 1 に直接設けてもよい。そして、第 8 の実施形態および第 9 の実施形態を組み合わせ、案内溝および位置決め溝の両方をヒンジ本体 1 1 に設け、案内軸および位置決め軸の両方を案内ブロック 2 1 に設けてもよい。案内ブロック 2 1 には、移行溝および枢軸溝を設けず第 7 の位置のみを設けてもよい。

30

【 0 0 8 7 】

上記の実施形態は、本発明の技術手段を例示するためにのみ使用されるものであり、これらに制限されるものではないが、本発明は好ましい実施形態を参照して詳細に説明されたが、例えば異なる実施形態の技術を重ね合わせて対応する効果を同時に達成することができる技術手段も、本発明の保護範囲に含まれ得る。当業者は、本発明の趣旨および範囲から逸脱することなく、本発明の技術手段を修正または等価置換することができることを理解すべきである。

40

【 図 面 】

【 図 1 】

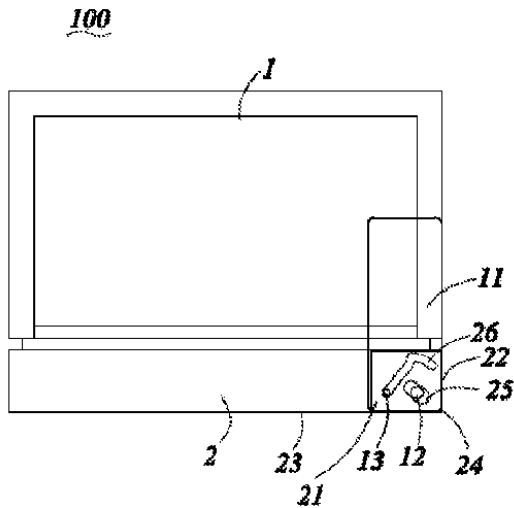


图1

【 图 2 】

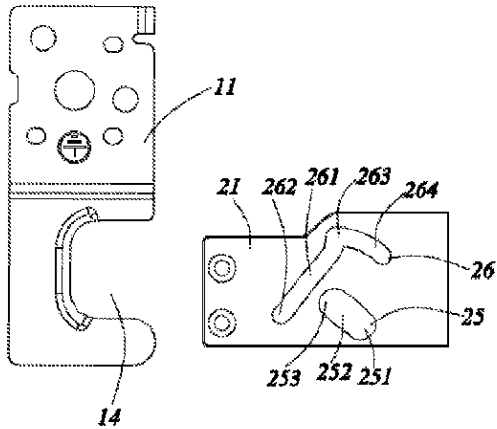


图2

【 图 3 a 】

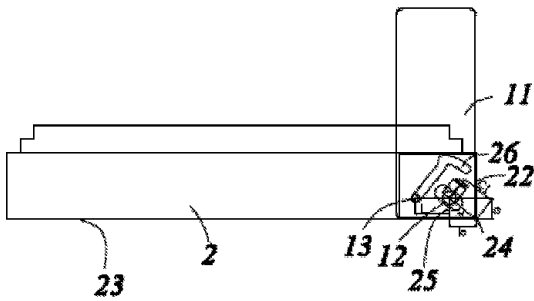


图3a

【 图 3 b 】

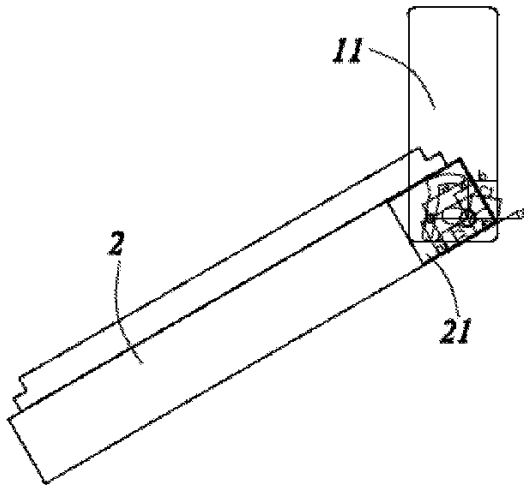


图3b

10

20

30

40

50

【 図 3 c 】

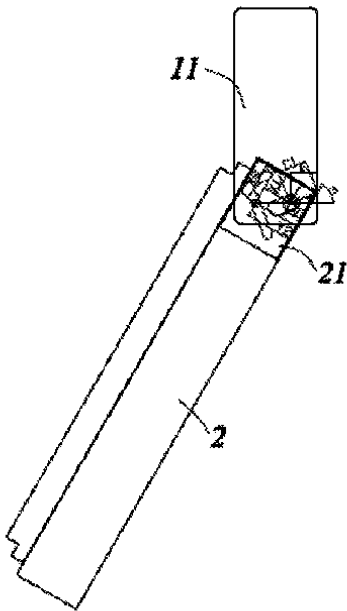


图3c

【 图 3 d 】

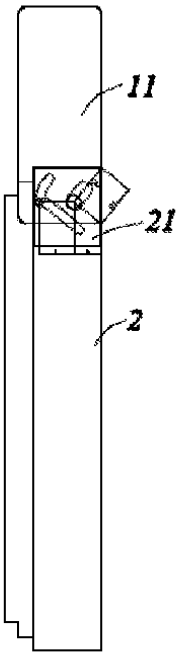


图3d

【 图 3 e 】

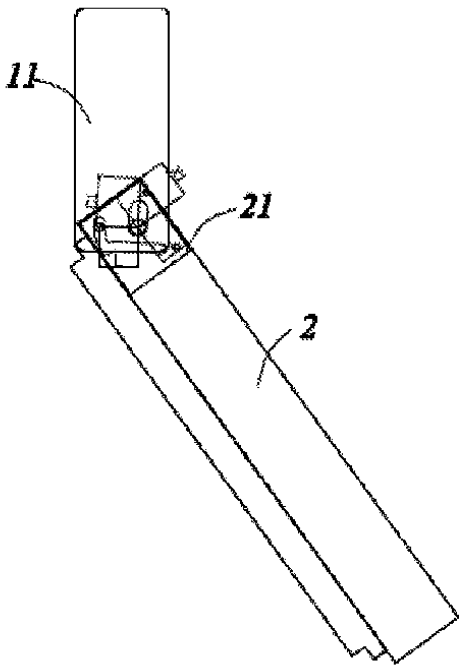


图3e

【 图 4 】

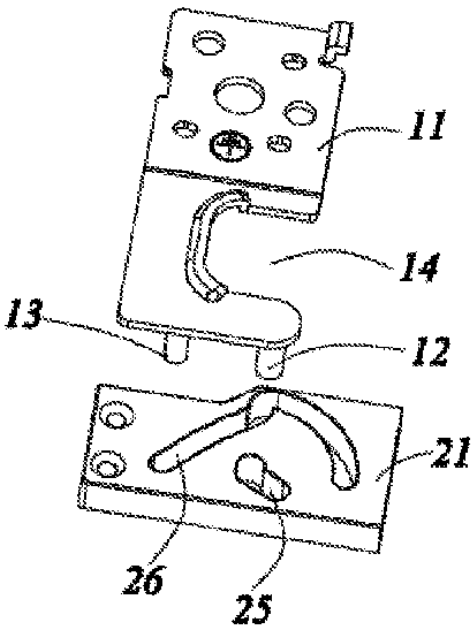


图4

10

20

30

40

50

【 図 5 】

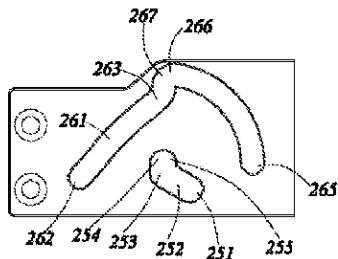


图5

【 图 6 】

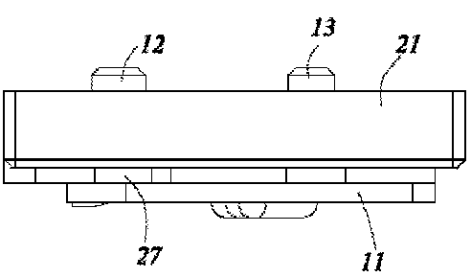


图6

10

【 图 7 】

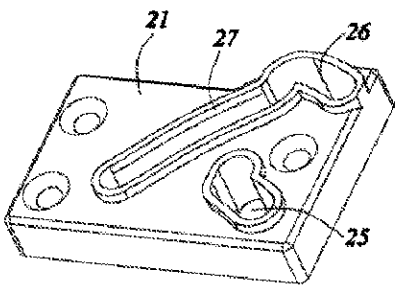


图7

【 图 8 】

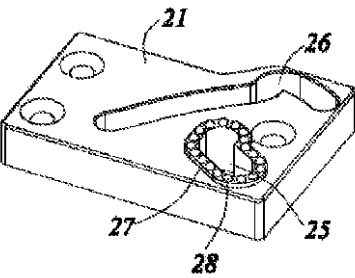


图8

20

【 图 9 】

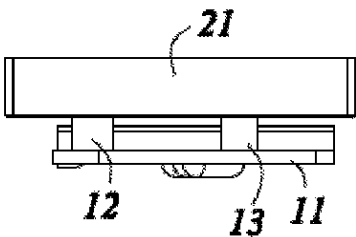


图9

【 图 1 0 】

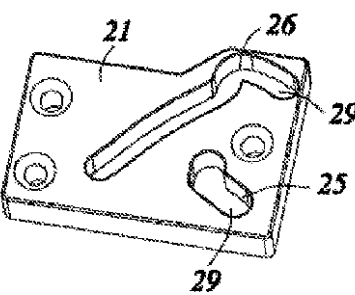


图10

30

40

50

【図 1 1】

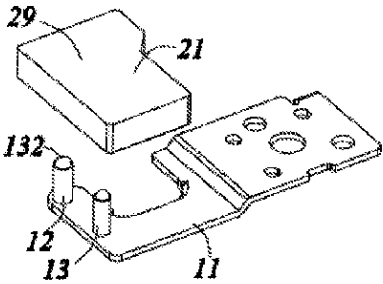


图11

【图 1 2】

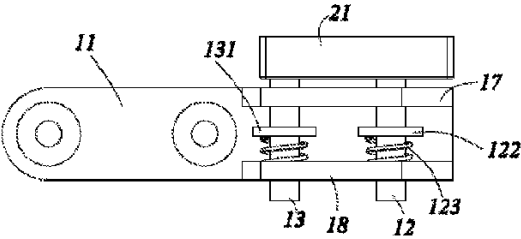


图12

10

【图 1 3】

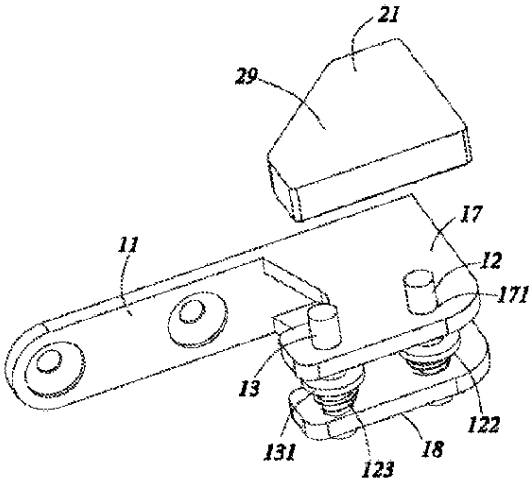


图13

【图 1 4】

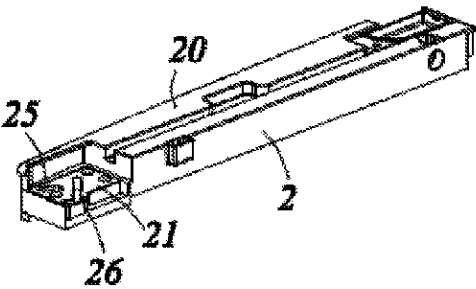


图14

20

30

40

50

【 図 1 5 】

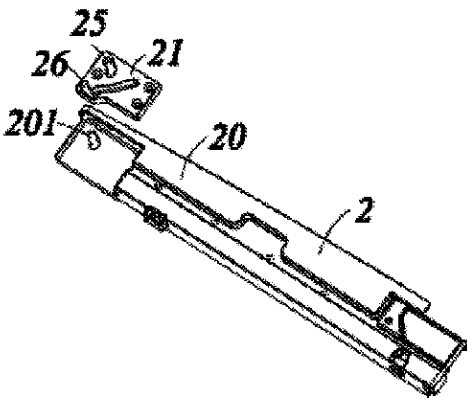


图15

【 图 1 6 】

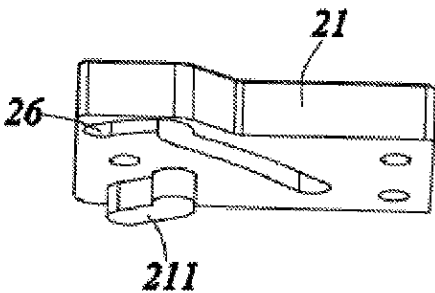


图16

10

【 图 1 7 】

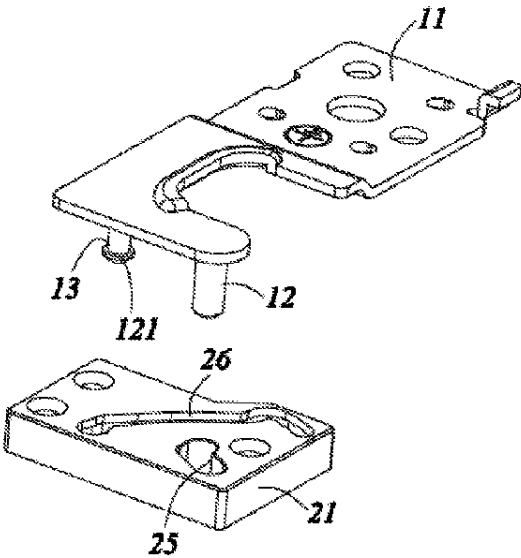


图17

【 图 1 8 】

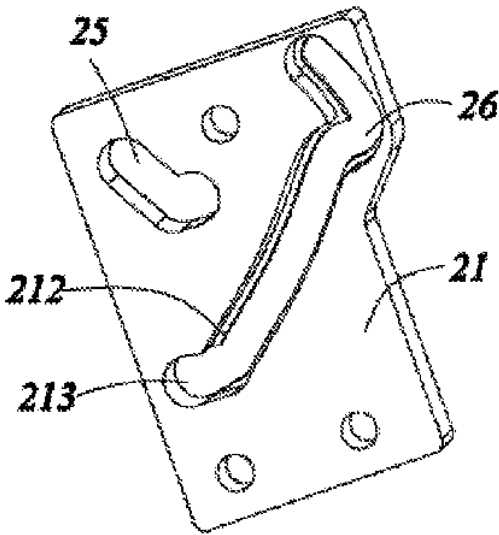


图18

20

30

40

50

【 図 1 9 】

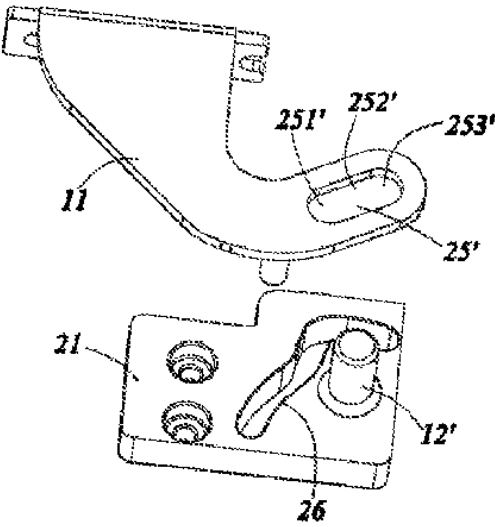


图19

【 图 2 0 】

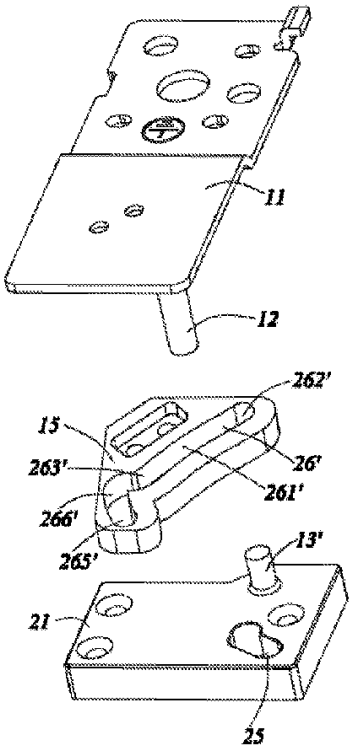


图20

10

20

30

40

50

フロントページの続き

- h i n a
(74)代理人 110001841
特許業務法人梶・須原特許事務所
- (72)発明者 シェン エンピン
中華人民共和国 2 6 6 1 0 1 ションドン チンダオ ラオシャン ディストリクト ハイテック ゾ
ーン ハイアール ロード ナンバー 1 ハイアール インダストリー パーク
- (72)発明者 チャン ハオ
中華人民共和国 2 6 6 1 0 1 ションドン チンダオ ラオシャン ディストリクト ハイテック ゾ
ーン ハイアール ロード ナンバー 1 ハイアール インダストリー パーク
- (72)発明者 チュ シャオピン
中華人民共和国 2 6 6 1 0 1 ションドン チンダオ ラオシャン ディストリクト ハイテック ゾ
ーン ハイアール ロード ナンバー 1 ハイアール インダストリー パーク
- 審査官 佐々木 訓
- (56)参考文献 中国特許出願公開第 1 0 6 1 9 6 8 1 9 (C N , A)
米国特許出願公開第 2 0 0 2 / 0 1 0 4 1 9 1 (U S , A 1)
特開 2 0 0 9 - 0 9 7 8 1 2 (J P , A)
米国特許出願公開第 2 0 0 6 / 0 1 6 8 7 5 9 (U S , A 1)
米国特許出願公開第 2 0 1 9 / 0 1 8 6 1 8 3 (U S , A 1)
- (58)調査した分野 (Int.Cl. , D B 名)
F 2 5 D 2 3 / 0 2
E 0 5 D 3 / 1 8